みんなの文芸

引間豊作選　投稿数24句

山鳩の声に覚まさる今朝の秋　三沢　新井　民子

（評）猛暑の土用の入りより数えて二十日目を立秋と呼び、その朝を「今朝の秋」とした古歌の言葉は、逆のぼって万葉集や古今和歌集にもしばしば見られ、その後の江戸俳諧では一般に発句の季節感を助長する言葉として定着したもようですが、近頃ではその日一日だけでなく、数日にわたって使われたようで、夜の「灯火親しむ候」と対をなしている。近くの山裾より鳩の声が、静かな空気を洗うように伝わってくるのに覚まされた作者は、爽やかに始まる今日に期待の一瞬をしみじみと味わうか。

陽のぼるを霧間に拝す白馬岳　下日野沢　浅見　好一
習わずも今年は今年の蟬が鳴き　大渕　金室　富雄
なめものを攪く母がいて父も夏　皆野　関口　未紀
ひぐらしの声つつ抜けの茶の間かな　三沢　新井　叶子
山百合の手折られいるをかかへ来し　下日野沢　引間富美子
山住の友を万緑隠しおり　金崎　設楽　武子
恐る恐る子と乗るリフト草いきれ　皆野　大沼シヅ子
初夏の風かすかに頬を遊歩道　下日野沢　田端　マサ
球児らの流るる汗は袖で拭く　下田野　中田　久恵
盲導犬にも靴欲しい猛暑かな　皆野　新井　茂
くわがたの稚き力込めにけり　下日野沢　高山　ユウ
労わりぬ亡夫転ぶな茄子の馬　三沢　横田ハルジ

俳句・短歌を募集

作品には、ふりがなをつけ、住所・氏名を明記して総務課へお寄せください。

8日必着

1人1句、1首に限ります。

中田國太郎選　投稿数16首

不随の身に耐えつつ兄の詠みし歌を繰り返し読む心情しのびて　皆野　新井　愛子

（評）店先に赤く映える鬼灯を見る季節になると、故人を偲ぶ盆が近付くのを感じる。今月は、挽歌が多かったが、その中で先の選者の故佐宗先生を詠んだ一首を取り上げた。体が思うように動かない不随の身を克服し、万巻の書を読み、杖に縋って散歩し、自然の息吹を感じ取り、そこから多くの歌を詠んだ。それらを繰り返し読む作者、結句の「心情しのびて」に近親者の深い愛情を感じた。懐かしい伊昔紅展が開かれている。師から戴いた絶筆の色紙「塵労のひと日の足袋を炉辺にぬぐ」師の生き方が鮮明に集約されている。茂作、親友の新盆に対して、「侘しいじゃないか」と哀惜の情深し。

「文ちゃん」と呼び合う友は楽天家侘しいじゃないか今年新盆　皆野　新井　茂
立秋の伊昔紅展を尋ぬれば俳句あまたに昔を偲ぶ　三沢　新井　民子
古本屋ならぶ神田の一角にビルが建ちゆくネットの時代　上日野沢　四方田利男
一重にも八重にも咲きし立葵梅雨明け近きを待てと咲きゆく　下田野　安井　光代
耳底に残る蝉の声熱き日よ被爆者のこゑ世界に届け　三沢　新井　叶子
薙刀を凛と教えし担任が職を辞されし終戦の秋　三沢　眞下　杏子
早世の母亡き五人兄弟の縁談開拓次男のわれは　皆野　金子善次郎
魂よ傍にゐますか母逝きて時は過ぎつつ蜩の声　皆野　笠原三江子
野牡丹は一日の命惜しみ無く紫冴えて笑みしごとくに　金崎　山田　雅子
日光の東照宮に参拝す湧水の美味今だ忘れじ　皆野　塩田　千代
猛暑故お身体ご自愛下さいと友の便りに心温もる　下日野沢　浅見　豊子
夫逝くや吾もたおれて杖たよりつたない短歌を心の友に　三沢　鈴木　キク

湧貴（ゆうき）くん

中大浜区
福島　輝臣さん
　　貴子さん
お兄ちゃんと一緒に☆
元気で明るく育ってね♡

遥花（はるか）ちゃん

大渕区
相沢　和孝さん
　　訓子さん
元気いっぱい遥花ちゃん♡
優しく健康に育ってね。

絆造（はんぞう）くん

上三沢区
横田　文彦さん
　　志麻さん
家族、親戚、地域社会の皆様方とのきずなを作って、健康な身体と健全精神で育って欲しい！

※満1歳の赤ちゃんを募集します。10月号の締め切りは、9月10日㈬まで。ホームページからも応募できます。